



アクト

第12号

2010年7月15日発行

九州国立博物館を愛する会

ご あ い さ つ

九州国立博物館を愛する会 理事長 前田和美

6月20日の愛する会「平成22年度通常総会」には多数の会員のご出席を頂き、無事終了する事ができ、ありがとうございます。また、会員の皆様には日頃より愛する会に対しご理解、ご協力頂きまして心より感謝申し上げます。

総会では平成22年度の事業計画が承認され、九州国立博物館と共に歩き、行動する市民団体として、第一歩を歩みだしました。来年度、愛する会は設立5周年を迎える中で、九州全体にネットワークを張り巡らせ、より強固な「まちづくり」「ひとづくり」を行う事が決議されました。私は「この街に住んで良かった」「博物館と出会って良かった」と言える様、皆さまの先頭になり事業に邁進していく所存です。本年度、愛する会は九州国立博物館とより身近な関係を構築し、様々な研究、研修を重ね、強固な団体を目指し活動していきます。

- 例えば、
- ①企業とボランティアの関係を研究し、共同の事業を模索する
 - ②九州国立博物館と連携して事業を展開する
 - ③愛する会を強固にする為、会員の増強を図る
 - ④例会等を充実させ、会員同士の連携を図る事業を行う
 - ⑤愛する会を宣伝する為、広報誌「アクト」を増版し広く市民に広げる。
- 等々、数多くの課題に取り組んで参ります。

また、来年（平成23年）1月には、九州国立博物館では初めての海外展「2つの国の巧と美」がタイの首都バンコクで開催されます。タイでは、私たちと同じ「タイ国立博物館を愛する会」が生まれています。私たちはこの海外展をきっかけとして、2つの国の「愛する会」の交流が深まるよう、様々な企画を行っていきたくと考えています。本年度も会員の皆様には、何かとお願いする事が多いと思いますが、皆様のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。



タイ旅行へのお誘い

出発日が決まりました。23年1月13日。
3泊になるか4泊かは未定ですが、海外展「2つの国の巧と美」開会式にも参加し、タイの「国博を愛する会」の方々とも交流する予定です。どうぞ参加してください。
行きタイ！ 見タイ！ 何かしタイ！



平成22年度通常総会

九州国立博物館を愛する会 平成22年度 通常総会報告

事務局長 野田 和宏

平成22年6月20日(日)15:00より、いきいき情報センターにおきまして平成22年度通常総会が行われました。当日は、会員82名の出席の中で平成22年度体制が発表され新しい「九博を愛する会」の船出となりました。



総会では、前田理事長の挨拶に始まり顧問の方々や九州国立博物館の三輪館長に挨拶があり、審議事項では監査報告で福山監事や前田監事にご指摘やアドバイスを頂きました。報告事項では、各人事の任期が2年間と言うことですが、(社)つくし青年会議所が単年度制でもあり顧問に麻生誉誌朗さんと交流委員会の副委員長に長浜義博さんへ変更がありました。

その後の懇親会では、会員の方々との楽しい親睦ができて楽しいひと時を過ごすことができました。

「九博を愛する会」も本年度末で設立5周年を迎えます。前田理事長の掲げる今後の取り組むべき課題を役員一同で取り組み、設立5周年に向けて頑張っています。

会員の皆様にも今後益々の、ご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。



熱心にメモを取る会員たち





湯の谷子ども会と清掃活動・花植え・九博見学会



ピッカ美化隊は6月13日太宰府市湯の谷子ども会と愛する会会員の子も同伴ご家族の共同活動で、博物館周辺道路の清掃、花植え、九博見学をしました。

小学児童14名と保護者の方10名が参加され、まずピッカ美化隊といっしょに定例活動コースの清掃を行い、地域の環境を大事にきれいにする体験をしてもらい、その後、九州国立博物館で花壇とプランターに



500株のポーチユラカの苗を、隊員と一緒に小さいが元気な手を働かせ植付けていました。

植付作業後、九州国立博物館の文化交流展示室を見学、九博展示解説・教育普及のボランティアさんが案内して、子ども・親ともども“古代の生活様式”や“仏像寺の文化財”を熱心に見学されました。

子どもたちの感想も「町をきれいにしたいね」「楽しい勉強になった」等を行いました。

大人のボランティアと共に活動する体験が博物館への親しみや学びを体得する良い機会であったかと思えます。

元気に咲いた花に逢いに館に遊びに、また、いっしょにボランティアという機会が多く出来ればと願っています。

事業委員会・ピッカ美化隊



「愛する会」東京国立博物館見学 珍道中記 「東遊記」

とある広報委員会の席上、「そうだ東京へ行こう！」ということで(どういうこっちゃ??)「愛する会」の三蔵法師=佐藤副理事長と孫悟空・猪八戒・沙悟浄の4名は、数々の難関を乗り越え、一路「東京国立博物館」へと向かったのでございます。



スタートは「雷門」定番ですね・・・



老舗和紙店「黒田屋本店」浅草は江戸情緒に溢れています。



「びっくり食堂」に一同びっくり?!



お腹がすいた・・・？
でも見てるだけ～



大衆演劇のメッカ「木馬亭」
演目に見入る猪八戒



船に乗っていざ銀座へ
スカイツリーが見えます



梶井基次郎の小説にも
出てくる銀座「ライオン」



「歌舞伎座」のこの建物も
これで見納めです。



ついに到着しました
東京国立博物館



↑記念撮影 みんな元
気です。永田香織姫も
来てくれました。



古文書等の書籍の保存
箱を製作している部屋



ここは、“バックヤード”
迷路のような建物
歴史を感じます。



九州国立博物館の元学芸部長で現東京国立博物館副館長小松大秀氏や東京国立博物館でも九州国立博物館でも仕事をされていたスタッフが何人もいらっしゃいます。日ごろ見学できないところまで親切に案内して頂きました。博物館のネットワークができてつあります。特別展「細川家の至宝」を見学。見事でした。やがて九博でも開催。

《 九博 特別展の見どころ 》

この夏、九博に馬がやってくる

開館5周年記念特別展 「馬 アジアを駆けた二千年」の見どころ

河野 一隆 (九州国立博物館 文化交流展室長)

近年になって自動車や機械が普及するまで、日本人にとって馬は、荷物の運搬や農耕など暮らしに欠かせない存在でした。日本にもともといなかった馬が、今から1500年ほど前に海を渡ってやって来ると、王や豪族たちの権威の象徴となりました。さまざまな儀礼の中で黄金に細工された馬具を身にまとい、荘厳に演出された馬もいました。その後、中世には武士の重要な戦力として重宝され、数多くの馬が活躍しました。一方では、神の乗り物である神馬として古代から篤く信仰され、飾り馬や競べ馬の行事が各地で行われてきました。

展覧会は4つの章立てに分かれます。第1章のテーマは「人と馬との出会い」。5500年前のヒラコテリウムから、人を乗せて走るための馬への進化の道筋をたどります。また、1500年ほど前の大阪府の集落遺跡から出土した、日本最初の馬の骨格は見のがせません。第2章のテーマは、「アジアを駆けた馬」。展示室の中央には、日本に馬が来た頃に樹立された広開土王碑(中国吉林省)の拓本を樹立し、その周りにアジアの馬の文化に関連した文化財を展示します。日中韓の博物館から集結した、日本初公開を含む23件の馬に関連した作品の競演。馬が描かれた高句麗古墳壁画や、韓国の古墳から出土した馬のカブトが展示されます。第3章のテーマは「黄金の馬」。その名の通り、今なお黄金に輝く日本全国から出土した馬具の数々が展示室を彩ります。なかでも、1985年に奈良県藤ノ木古墳から出土した鞍や杏葉、円形金具などの至宝の数々からは、日本人がはじめて出会った金への憧れとシルクロードによってオリエント地域にまで繋がる古代のエキゾチシズムを感じ取ることができます。第4章のテーマは「神馬の誕生」。古代の飾り馬以後、神への使いとなった馬、「神馬」は日本の馬の文化を豊かなものとしていきました。中でも京都上賀茂神社で現在も行われている古式競馬については、そのありさまが描かれた屏風や有職故実にのっとりとした騎手服などが展示されます。

展示室の最後には、幕末以降に日本に入ってきた洋式競馬(近代競馬)や現代競馬を紹介いたします。中でも、昭和・平成の日本ダービーで多くのファンを熱狂させたディープインパクトやオグリキャップの馬像や騎手服(勝負服)、蹄鉄なども展示します。これらは、期間中展示替えがありますので、ちらしやホームページをご確認のうえご来館いただけましたら幸いです。

馬と人間の悠久の歴史をたずねる特別展「馬 アジアを駆けた二千年」。日本における馬の登場に光を当てた展覧会としては、空前の規模で開催されます。夏休みの一日、展覧会だけでなく関連イベントをも楽しむことで、きっと馬が身近に感じられることでしょう。



国宝 鞍

奈良県藤ノ木古墳出土 文化庁蔵
奈良県立橿原考古学研究所写真提供

黄金に輝く藤ノ木古墳の鞍。
当時、最高峰の技術で作られた馬具だ

イベント情報

特別展「馬 アジアを駆けた二千年」関連イベント『CLUB K馬に親しむ夏休み』

開催日	時間	その他条件	もよおし	会場	問合 (注1)
7月13日(火) ～9月5日(日)	9:30～17:00	無料	常設展示 けいばの広場	エントランスホール・ 屋外レストラン前広場	A
7月土・日・祝日 15・29日(木) 8月木・土・日9月4・5日	10:30 ～15:30	随時実 施無料	九州国立博物館で本物の馬と仲良しに なろう!「ポニーとのふれあいイベント」	屋外レストラン前 広場	A
7月土・日・8月1日(日)・ 7日(土)・8日(日)	10:30～	定員30名・ 無料・雨天中止	ワークショップ 馬を観察して描い てみよう「馬のスケッチ大会」	屋外レストラン前 広場	A
7月8月毎週 土・日曜日	①13:30～②14:30～ ③15:30～④16:30～	無料	レース映像を見ながらみんなで楽しむ 「1着当てゲームにチャレンジ!」	エントランスホール	A
7月18日(日)	13:00 ～15:00	定員280名・ 要申込・無料	シンポジウム 「藤ノ木古墳の馬具」	ミュージアムホール	B
7月19日 (月・祝)	①11:30～ ②13:30～	要申込・各回定員280名・ 無料(特別展の観覧券半 券の提示が必要)	ミュージアムトーク 「AKB48 篠田麻里子が九 州国立博物館にやってくる!」	ミュージアムホール	C
7月25日(日)	14:00 ～15:00	各回定員280名・ 事前申込不要・ 無料	ミュージアム「馬」セミナー! 「日本人と馬」楠瀬良氏(JRA競 走馬総合研究所 次長)	ミュージアムホール	A
7月29日(木) 8月毎木曜日	①10:00～②12:00～ ③14:00～④16:00～	各回定員15名・ 先着順・無料	ワークショップ「馬のくつ (蹄鉄)でコースターを作 ってみよう」	エントランスホール	A
7月31日(土)	13:00 ～15:30	要申込 定員280名 無料	末崎真澄氏(馬の博物館理事)「日本の 馬文化―人と馬の歴史から―」 川嶋舟氏(東京農業大学農学部講師) 「九州の在来馬」講演会	ミュージアムホール	B
8月1日(日)	14:00 ～15:00	各回定員280 名 無料 事前申込不要	ミュージアム「馬」セミナー! 「馬の 進化と日本在来馬のルーツ」 石田信繁氏(JRA競走馬総合研究 所 上席調査役)	ミュージアムホール	A
その他のイベント					
7月13日(火) ～25日(日)	9:30 ～17:00	無料	筑豊の近代化遺産展	エントランスホール	E
7月24日(土)	①13:00～13:30 ②15:00～15:30	無料	きゅーはくミュージアムコンサート ～大草原に響く馬頭琴の調べ～	ミュージアムホール	A
8月7日(土) ～8日(日)	11:00 ～15:00	無料	九博こども向け夏休みイベント 「あじっば夏祭り2010」	ミュージアムホール・ エントランスホールほか	D
8月10日(火) ～27日(金)	9:30 ～17:00	無料	バードライフ・アジア主催巡回写真展 「藤原幸一・環境写真セレクション」	エントランスホール	F
8月21日 (土)	①10:00～12:00 ②14:00～16:00	要申込・定員各回30 参加費500円:小学生	エレクト夏休み工作教室 in 太宰府 2010 ”はこバルーン”を作ろう	研修室	G
8月28日 (土)	①13:00～13:30 ②15:00～15:30	無料	きゅーはくミュージアムコンサート	エントランスホール	A
9月12日(日)	13:00開場 13:30開演	全席指定2,500円	第16回九博朝日寄席「鯉昇の 落語、三三の落語をきく九月」	ミュージアムホール	H
9月18日(土)	①13:00～13:30 ②15:00～15:30	無料	きゅーはくミュージアムコンサート	エントランスホール	A

※ 注1

- A 九州国立博物館 NTTハローダイヤル 電話050-5542-8600 (8:00~22:00)
- B 西日本新聞イベントサービス内「馬 アジアを駆けた二千年」係 電話092-711-5491(平日10:00~17:00)
- C (株)プランニューウェイブ内「ミュージアムトーク 篠田麻里子」係 電話092-411-2102(平日10:00~18:00)
- D 九州国立博物館 交流課 電話092-929-3289
- E 筑豊文化財行政連絡協議会(事務局:桂川町教育委員会社会教育課) 電話0948-65-2900
- F NPO法人バードライフ・アジア 電話03-5213-0461
- G (株)イーケイジャパン 電話092-923-8235(平日10:00~18:00)
- H 朝日新聞社 事業本部西部企画事業チーム 電話092-411-1137 (平日10:00~18:00)

稲作り体験プログラム『米づくり隊』実行委員会報告

須川 一幸

九博4Fの文化交流展示室では「稲づくりから国づくり」をテーマに水稻耕作と金属器の普及について展示され、国の繁栄についての稲や金属器の役割についてわかりやすく説明されています。そこで、九博と水稻耕作の田んぼを結んで、館内展示とフィールド展示の立体的な融合を図り、具体的にわかりやすく「稲づくりから国づくり」を学習しています。

また、農村の景観保全、耕作放棄地の解消、食育や地産地消の推進、子育て支援、農作物の自給率UPなど具体的な活動を通して様々な問題点にも目を向け、日本の食文化を体験していこうと考えています。

今までの経験で、孫がご飯やおかずを残さなくなったこと、「いただきます」「ごちそうさまでした」と自然にいえるようになったことが大きな成果となっています。もちろんママさんたちが地元の野菜を調理するようになったのも大きな前進です。

毎回、農業の方に農業について教えてもらい、田んぼのドロと仲良くなり(子どもはドロンゴ遊び?)、農家の食卓を楽しみ(食べるにより収穫の喜びを感じている)参加者同士の交流も生まれています。

田植え(6/5実施)~草取り(7/10実施)~案山子づくり~稲刈り~架け干し~餅つきと進んでいきます。



6月5日(土)晴天 田植えの始まり
大人69名、子ども37名の参加

まっすぐになって
るかな?
本当に育つかな?

あくまでも予定です。天候
や稲の生育状況により日程
変更がある場合はご了承願
います。

今からでも参加できますよ!現在会員37名、地元協力者15名です。会員は50名まで受け付けます。これからは収穫の楽しみのための活動になります。盆過ぎ8月22日(日)に『九博文化交流展示学習と案山子作り』を予定します。稲刈り・架け干しは10月24日(日)、脱穀は11月7日(日)、餅つきは12月12日(日)と3月26日(日・九博デー/九博にて)を予定しています。



6月10日(日)晴天 トンボ飛ぶ中で
草取り 子ども含め44名の参加

末金 厚子



太宰府西小学校で韓国舞踊の指導を託されて9年になります。

私は、1年間くらい市民講座を受けた程度で、専門的に舞踊を学んだわけではなかったのですが、指導なんてとても考えられませんでした。しかし、先生からの熱心な依頼もあってチャレンジ。

全身で心を込めて携わってきました。熱心と努力を心に刻み、授業体験によって多くのことを学びました。ああでもない、こうでもない、いやこうだと自問自答

しながら模索し、舞を作り上げることの難しさに直面し、いかに教え、いかに美しく、いかに・・・？どの様に・・・？と、寝ても覚めても思い悩む日々が続いたものです。未熟な私には大きな試練でした。手探りの状態で生徒さんたちと触れ合ううちに、練習の成果が現れた時は喜びもひとしおで、大きく拍手をしました。韓国百済小学校との交流式典、学習発表会では、ハラハラドキドキで、祈りながら舞台を見ました。見事に伝統舞踊を舞い終え、会場の大きな拍手に、生徒さんたちの満足した晴れやかな顔を見ると、ホッと胸を撫で下ろしたものです。そして“生徒さんは、すごいなあ！ ありがとう・・・”と、幸せな思いでいっぱいになります。

扇で、美しい舞の花を作るには、一人でも協調しないと形がくずれてしまいます。古典音楽のリズムはとても難しく、各々のハートが一つになって、はじめて美しい舞の花となり感動します。

短時間の授業が終了し、生徒さんからの感謝のメッセージに胸が熱くなります。私たちが学んだことは“協力”「みんなで心をつに」ということです。息が合わないと成功しないということが、よくわかりました。本番で、みんなが心をつにして美しい舞の形が出来、成功した時は嬉しいし、楽しいし・・・、感謝につながります。

ただ踊ればよいということではなく、皆が心をつにし、舞った韓国伝統舞踊「プチェチュム」は大きな感動を呼び、韓国から訪問してくださった先生方からも称賛と感謝の言葉をいただき大きな励みとなっています。

チームワークで取り組むすばらしい精神は、いろんな面で喜び、そして感動し、心に残ることでしょう。練習に励んだ生徒さんたちに、大きな拍手を送ります。

私も精進と努力をしたいと思います。



編集後記

「愛する会」の活動もやっと骨組みがみえてきたようです。この秋も「古都の光」「政庁祭り」とイベントが目白押しです。春の「こどもフェスタ」も充実してきました。これからも九博と皆様の“かけはし”になれるようがんばりましょう。 S・F